

# こどもと健康

NO・165 2016・3・7

## インフルエンザ依然、流行中！

例年より流行の始まりが遅かったインフルエンザも気温が低下するにつれて流行が拡大、全国の感染症サーベイランスでは1月4～10日の第1週では一部休診の医療機関があったにも関わらず、1定点当たり、2.0と今シーズン初めて流行の始まりと言われる1.0を上回り、その後第2週4.1、第3週9.2と倍増し、第7週に全国的には37.2とピークとなりました。2月22日からの第8週には定点当たり36.1とわずかに減少に転じましたが、都道府県別では愛知県54.3、愛媛県53.1、鹿児島県49.5と続き、23県で前週よりも増加がみられ、24都道府県で減少がみられました。大阪府では39.1、堺市では46.0と最盛期が続いています。昨シーズンの流行はA香港型が96.6%で、B型(山形系統)が2.6%検出され、6年前に大流行したいわゆる新型(最近では、AH1pdm09型と呼ぶ)は僅か0.8%でした。今シーズンになって全国の衛生研究所で検出されるウイルスはA香港型が57%と最多で次いでB(ビクトリア系統)16%、AH1pdm型15%、B型(山形系統)13%となっていますが、直近5週間では7年前に大流行したAH1pdm09が最多となっています。しかし、堺市医師会のサーベイランスでは先週、B型が70%を占め、特に7～15歳では85%を占めています。それに対し、成人ではA型が55%を占め、3歳未満ではA型とB型が半々となっています。罹患年齢は全国的に5～9歳が最多で次いで10～14歳となっており、これまでの累計推定患者数は約950万人となっています。

2月22日からの第8週に堺市では1園が休園、7学年で学年閉鎖、56クラスで学級閉鎖となっており、今年度の累計では休園1園、学年閉鎖32学年、学級閉鎖210学級と、昨年の第10週累計の1園、1学年、186学級より、大幅に増加しています。春休み前の3連休までは大きな流行が続き、春休みと共に終息に向かうと思われまます。今後の気温変化が大きく影響するでしょう。

年齢や地域社会、学校などで異なる型が流行していますので、一度罹ったらもう安心とはならないようです。4月まではワクチン接種が済んでいても、マスクをして外出、人込みを避ける、外出から帰ったらうがいと手洗い、睡眠を十分にとる、栄養に気を配る、疲れを残さない、規則正しい生活を守る等、難しいでしょうが、家族みんなで配慮しましょう。

今年はB型の患者さんで発熱が遷延する傾向があり、国立感染症研究所の全国調査でも今のところ、タミフル耐性ウイルスはAH1pdm09で1%に過ぎず、B型では見つかっていないようです。治療は10歳台には異常行動予防の観点から吸入のイナビルが、1歳以上9歳未満はタミフルが主流となっており、1歳未満にタミフルの適応がありませんので、重症の場合は静脈注射のラピアクタが使われます。罹ってしまったら「咳エチケット」に心がけましょう。

# 「ジカ熱」今年第1号確認！

最近、新聞、テレビで「ジカ熱」が取り上げられることが増えてきました。発熱が軽度のこともあり、「ジカウイルス感染症」として全例届ける病気になりました。我々、医師でさえほとんど知らないジカウイルスによる蚊が媒介する感染症です。蚊に刺されて発症するデング熱が一昨年の夏、東京・代々木公園で感染が拡がり、社会問題となりました。国内感染例はこの60年間なかったからでした。その後国内感染例は確認されていませんが、海外での感染例は昨年も292例報告されています。同じく、蚊が媒介するチクングニア熱も17例報告されています。日本ではジカ熱は過去僅か3例確認されただけですべて海外での感染例です。しかし、今回の騒動後、初めてブラジルから帰国した高校生からジカウイルスが検出され、本邦第4例目となりました。

ジカウイルスは1947年にアフリカ・ウガンダのジカZika森林でアカゲザルから分離され、この名があります。1968年には人からも分離され、2007年にジカ熱がヤップ島で流行、2013年にフランス領ポリネシアで1万人の感染が報告され、2014年にイースター島、2015年になってブラジル、コロンビア等南米で流行が発生し、今年になって中南米を中心に52の国と地域に拡大しています。特に、ブラジルでは150万人以上が罹患、罹った妊婦さんから発達障害等を引き起こす小頭症が多発、2001年から2014年に年間平均163例の発生数であったのが、2015年10月から2016年2月20日までに5640例も発生、120名が死亡してWHOも放置できない事態となり、「緊急事態」を宣言しました。

ジカウイルスを持った蚊に刺されても多くは無症状で経過しますが、発症すると軽度の発熱(38.5度以下)頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹、結膜炎、倦怠感などを呈し、1週間程度で治癒して、デング熱、チクングニア熱より軽症と言われています。合併症として従来、ギラン・バレー症候群や血小板減少性紫斑病が指摘されてきましたが、今回妊婦が罹患すると小頭症を高率に合併することが判明して騒動となっています。なお、デング熱と同じく人から人への感染はありません。

日本にもジカウイルスを媒介するヒトスジシマカ(デング熱ウイルスも媒介)がいますので、今後注意が必要になるでしょう。先日はリオのカーニバル、夏にはリオ五輪があるので、ブラジルに渡航する日本人が増加しますが、長袖着用、虫よけスプレーなど蚊に刺されない対策を講じる必要があります。少なくとも、妊婦さんは中南米への渡航は自粛した方が安全です。

日本にいる限り、そんなに神経質になることもないでしょう。蚊の季節になれば、日本脳炎もありますので、当然、蚊対策は必要でしょう。たとえ、患者が発生しても、ヒトスジシマカは越冬できませんので、一昨年のデング熱と同じように1年で終結する可能性が高いと言われます。

## B型肝炎ワクチン、10月から定期接種化！

予防接種上で定期接種化すべきワクチンにリストアップされているうちから、B型肝炎ワクチンが平成28年度から(10月実施)定期接種化されることになりました。対象年齢は平成28年4月1日以降に出生した児で生後2か月から1歳未満の間に3回接種します。生後2か月、3か月、7か月の3回接種が推奨されていますが、4月生まれの児は10月から接種を始めましょう。前号で平成28年3月以前の出生児も10月以降にお誕生日迄接種対象と記載しましたが、平成28年3月生まれまでは接種対象外となりましたので、任意接種をお願いします。

**3月22日(火)～24日(木) 休診します。**